

大阪は「まち」がほんまにおもしろい

大阪 あそ歩

OSAKA
ASOBO

11 大阪市立工芸高校本館

大阪市の有形文化財。外壁のレンガ、大アーチの玄関入口、マンサード風の屋根など重厚かつロマンあふれる極めて特徴的なデザインになっています。マンサードとは、上部の傾斜が緩く、下部が急の2段に折れた屋根のことで、フランスの建築家マンサールの創始によります。名称「腰折れ屋根」で、大阪市内では珍しく、余り類例がありません。

12 文の里公園「慰霊塔」

「この慰霊塔は文の里地区の英霊を慰めその遺芳を後の世に伝え崇敬・感謝・平和の祈りの象徴として大阪市最初の被爆地を選び文の里遺族厚生会及び有志によって建立されたものであります」とあります。

13 榎神社・桑津墓地

桑津村は『日本書紀』に記述があるほど古い歴史を持ちます。桑津墓地は伝説によれば奈良時代の僧・行基(668~749)が各地巡礼のさいに開基されたもので行基墓と呼ばれたといわれていますが、行基自身がこの地で布教活動をした事実は不明で、その弟子達が行基の名を借りて布教活動をしたのではないかと考えられます。現在は旧北田辺村と桑津村の葬祭や斎場として存続して、現在600基ほどの墓碑があり、桑津墓地維持会が整備管理しています。また、この場所の字名が大塚で、地形も小高くなっているため古墳があったと言われています。

14 豊下製菓

明治5年(1872)創業。くだおれの街・大阪の舌に鍛えられ、育ったおいしい有平糖とキャンデーをいろいろ取りそろえています。なにわの伝統船野菜はお土産に最適です。

15 美章園駅・遭難供養之碑

昭和20年(1945)2月14日。阪和線美章園駅に落下した1トン爆弾は鉄筋コンクリートの橋脚を粉砕するとともに、付近の民家20戸余りを破壊し、死傷者30余名をだすという大きな被害をもたらしました。当時の駅職員の手で昭和26年(1951)8月24日に供養の碑が建てられました。



あべの庶民の民話の舞台をゆく

～オロチ塚伝説の股ヶ池から松虫通を歩く～

我が国最初の官道・難波大道や住吉大社の神馬塚、桃ヶ池の怖ろしいオロチ伝説に、行基ゆかりの桑津墓地…。さまざまな歴史の舞台が交錯する、文の里界隈を歩いてみましょう。

1 法楽寺

正式名称、真言宗泉涌寺派大本山紫金山小松院法楽寺。昔から「田辺のお不動さん」の名で親しまれています。小松院とあるように治承2年(1178)、平重盛(小松殿)の創建で、熊野参詣の途中に立ち寄って、落慶法要を行ないました。保元の乱(1156)や平治の乱(1159)で戦死した兵士の霊を敵味方の区別なく葬りたいという重盛の厚い信仰心から建立されました。また、この寺を起点として河内源氏の動静を重盛が探ったという説もあります。元龜2年(1571)、織田信長の兵火で焼失。現在の本堂は元禄年間(1688~1704)に大和・宇陀の城主・織田家の書院を移したものです。

3 神馬塚

住吉大社の神馬の飼育は代々、田辺が行っていました。伝説によれば神功皇后が朝鮮半島から見事な白馬を持ち帰って住吉大社で飼育していましたが、ある日、失踪。探してみると田辺の地で休んでいて「馬はここを好んでいるようだ」と神馬の飼育を田辺の住民に任せたといいます。以来、連続として戦前まで神馬は朝夕、田辺と住吉大社を往復していました。神馬塚は神馬たちの供養墓です。

6 桃ヶ池伝説

桃ヶ池は付近の田畑に水を供給する水量豊富な美しい池でしたが、何時の頃か、この池に大きな蛇が住みつき、村人達も恐れよりつかなくなったため、池も荒れ果てて、農家の人も田畑に水がながせなくなりました。そこで、この話を聞いた聖徳太子が使者を桃ヶ池に outward させ、使者は池の中に入り、水が股に及んだあたりで大蛇を退治し、その後、村人は安心して暮らせたといわれます。江戸時代の地誌「摂陽群談」には「池は東成郡南田辺村にあり処伝に言へり昔此の池に大蛇ありて人民の愁いなりき時に聖徳太子人を使わせしめて池に入らむ淵底深しと誰も脛に及んで易く退治して愁を止めしむ、因て之を号す」とあります。

8 平野川調整池「桃ヶ池換気塔」

松虫通の道路下約22メートルの深さのところ平野区西脇から阿倍野区聖天山公園にかけて、大雨の時に雨水を貯める地下トンネル(平野川調整池)を設置して、浸水を防ぐ働きをしています。この桃ヶ池公園の地下には東西のトンネルをつなぐ立杭があり、トンネル内を換気するための換気設備を備えています。この建物を桃ヶ池換気塔といい、立杭内への出入り口であると同時に、屋根裏から地下につながる換気口になっています。

2 難波大道

『日本書紀』によれば推古21年(613)に「難波から京に至るまでに大道を置く」とあり、難波から飛鳥に至る難波大道が設けられたとされています。昭和55年(1980)に大和川・今池遺跡(松原市)で全長約170メートルにわたって真っ直ぐのびた古代の道路跡が発掘され、堺市常磐町でも下水処理の新設工事に幅18メートルの道路遺構が見つかりました。この直線道路を北に延長すると難波宮の中軸線上に位置し、さらに出土品も難波宮とほぼ同時代のものであることから難波大道の遺跡と考えられています。難波宮を南下して四天王寺、寺田町駅、桃ヶ池、法楽寺、山坂神社を通過、堺市の長尾街道・竹ノ内街道からは東に折れて、飛鳥・大和に通じています。

4 桃ヶ池公園

歴池(元禄期)、百池(寛政期)、股ヶ池(明治期)、桃ヶ池(昭和9年)と時代によって名称が変わりますが、今は桃ヶ池と呼ばれています。古くは猫間川にもつながる池でした。摂州の古地図によると、池の形が股を含む形のそっくりであったことから「股ヶ池」と呼ばれていたとされ、神馬の飼育を田辺の住民に任せたといいます。以来、連続として戦前まで神馬は朝夕、田辺と住吉大社を往復していました。神馬塚は神馬たちの供養墓です。

7 股ヶ池明神

飛鳥時代、股ヶ池中央にある浮島のくぼみに、胴まわり3.6メートル、長さ11メートルもあると思われる巨大な怪物の死体が横たわって人民が恐れおののき、聖徳太子がこの地に穴を掘って怪物の死体を埋めました。しかし、その後も引き続いて池に怪異が起るので、件の怪物の霊を供養しようとオロチ塚を建てて天神地鬼を祀りました。それから幾百年が経ち、高津3番地に住む信心深い角田某という人が、ある夜、蚊龍が降りて来て「どうか股ヶ池に於いて祀りをしてくれ」と哀願する夢を見ました。これは神のご託宣なりと早速オロチ塚の北のところに一字を建てて丸高、丸長の2大竜王を祀り、これが股ヶ池明神の起こりです。またオロチ塚は昭和初期まで残されていたことが判っていますが、現在は所在不明です。

9 松虫通

松虫通は大阪市の道路の愛称名で、西に向かうと松虫塚に辿り着きます。昔、松虫塚周辺は見渡す限りの原野で、秋には虫の音が満ち、特に松虫(今の鈴虫)の澄んだ音色が美しく、松虫の名所として知られていました。

10 南海平野線・文ノ里駅跡

かつて、この辺り一帯は畑地でしたが、大正中期より天王寺土地株式会社住宅地として開発し、また同社は駅を建設して南海鉄道に寄付しました。当時、付近に学校が多かったことから駅名を「文ノ里」と命名して、その後、駅名にあやかって駅周辺の住居表示も「文の里」と改称されました。昭和55年(1980)11月27日廃線。